千鳥型学習指導のスタンダード

学ぶ意欲と確かな学力を身につける　それぞれの夢の実現

岡山県立笠岡高等学校

1　学習指導の基本方針

(1) 生徒自らが学ぶ姿勢を大切にし、生徒の知的好奇心を刺激し、学びのよろこびを感じさせる授業を行う。
(2) 事象の本質を捉え、原理原則から発展的な学習へと導く、質が高く深みのある授業を行う。
(3) 大学入試問題研究・作問研究、各種テストの分析、授業研究、各種研修会への参加、幅広い読書など、教科指導力向上のための研鑽に努める。

2　指導改善と学力向上へ向けて

(1)年間の継続的な授業改善　R-ＰＤＣＡサイクルに基づき、質の高い授業作りと授業実践に努める。

Research	→Plan	→Do	→ Check	→ Action
教科会議による現状分析	学びの意義 シラバスの作成	授業実践	授業評価 互見・公開授業	授業改善

(2)生徒の学習意欲を高める仕掛けづくり
生徒の学習意欲を高めるために、日々の授業の様子や「生徒による授業評価アンケート」から、生徒の授業に対する興味と意欲を読み取り、集団や個に応じた指導を工夫する。

■ＡＲＣＳモデル－動機付けモデルの活用
Attention(注意)、Relevance(関連性)、Confidence(自信)、Satisfaction(満足感)
４つの側面をチェックして、効果的に生徒の学習意欲を高める。

(3)授業改善と内容の充実を目指して

■授業スタンダード

生徒を主体的な学習者（アクティブ・ラーナー）に導く授業の標準形を設定し、学校全体で実施する。

Ａ　授業目標の提示
① 生徒が見通しをもって授業に臨めるように、授業目標を明確に伝える。

Ｂ　主体的活動を設定
② 生徒が思考する活動を取り入れ、「わかった」を実感させる。
③ 授業内で生徒が成功体験できる活動を取り入れ、「できた」を実感させる。
④ 復習（家庭学習）に繋がる学習システムを授業内活動で体験させる。

Ｃ 振り返る機会の設定
⑤ 学習内容を整理するために、授業内で学習内容を振り返る時間を設ける。

(4)学習内容の定着のためのアプローチを研究･実践し、結果を共有する。

ア　授業方法の工夫
授業方法を工夫し、単元や題材のまとまりの中で、必要な部分に最も適した方法で授業を行う。
また、それぞれの授業方法をよりよいバランスで展開する。

① 講義型授業	知識・思考方法を系統的に伝達
② ＡＬ型授業	身につけた知識・技能を活用する主体的・対話的で深い学び
③ ＩＣＴ型授業	ＩＣＴの利活用による新たな学び

イ　習熟度別授業の工夫
指導計画を立案、学習内容やねらいの共通理解を図り、習熟度別授業を実効性のあるものにする。

ウ　学習内容の定着のための工夫
インプットとアウトプットの繰り返しを促す様々な方法を工夫し、学習内容の定着を図る。

(5) 指導と評価の一体化を目指して
ア　評価は生徒にとっての学習に対する成果であり、学習をより一層充実させるためのものである。
評価結果によって指導を改善し、新しい指導の成果を再度評価する。
イ　定期考査等のペーパーテストによる評価に加えて、パフォーマンス評価やルーブリック評価、ポートフォリオ評価など多面的評価を活用し、資質･能力のバランスのとれた評価を行う。

3　学習習慣の確立　－家庭学習の充実を目指して－

(1)　課題の工夫
ア 組織的な課題提供
課題の出し方や内容、量については、発達段階に応じた適切なものとなるよう、学年団、進路課などで協議し、共通理解を図る。
イ　課題の内容
課題は量よりも質を重視する。学習内容の定着を図る復習が行える課題、習熟度別授業を実施している場合にはレベル別課題等、効果的なものとする。
(2) 学習時間のスタンダードの活用
各ステージにおける標準の家庭学習時間(週平均)を示すとともに、生徒の弱点科目に応じた学習を支援する。